

2022年12月18日 アドベント第4聖日

インターネットの礼拝映像配信は9時より。11時からは録画を視聴できます。

後奏 報告 感謝祈祷	祝 禱	頌 栄	献 金	賛 美	説 教	聖書朗読	使徒信條	礼拝祈祷	交 誦	主の祈り	賛 美	賛 美	招 詞	前 奏
		聖歌376		聞けや歌声 (1〜3)	人と共に住まれた主 荻野泰弘牧師	ヨハネの福音書 1章1〜14節			詩篇24篇1〜10節		朝日は昇りて(1〜3)	大いなる方に(1回)	「天よ、喜びの声をあげよ。地よ、小躍りせよ。山々よ、歓喜の声をあげよ。主がご自分の民を慰め、その苦しむ者をあわれまれるからだ。」アーメン	12月18日 アドベント第4聖日

■朝日は昇りて(1〜3節)(新聖歌70)

- ①朝日はのぼりて 世を照らせり 暗きに住む人 きたりあおげ
知恵に富みたる主 世にいでたり 悟りなき人は きたりまなべ
- ②力に満つる主 世にのぞめり か弱き人びと きたりたのめ
安きをたまう主 世にくだれり 苦しめる人は きたり受けよ
- ③救いをたまう主 世に生まれぬ すべての人びと きたりいわえ
あめつち しらす主 世にあらわる よろずのもの みな どよみ歌え

■「大いなる方に」(1回)

大いなる方に 感謝ささげます 御子キリストの 愛のゆえに
聖なる方に 感謝ささげます 御子キリストの 愛のゆえに
今 弱い者よ 叫べ 勇士だと 勝利の主が ともにおられる
今 貧しい者よ 叫べ富んでいると 恵みの主が ともにおられる
感謝します

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名をあげめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇24篇1節～10節

- 1 地とそこに満ちているもの
世界とその中に住んでいるもの
それは主のもの。
- 2 主が 海に地の基（もとい）を据え
川の上に それを堅く立てられたからだ。
- 3 だれが 主の山に登り得るのか。
だれが 聖なる御前（みまえ）に立てるのか。
- 4 手がきよく 心の澄んだ人
そのたましいをむなしいものに向けず
偽りの誓いをしない人。
- 5 その人は 主から祝福を受け
自分の救いの神から義を受ける。
- 6 これこそヤコブの一族。
神を求める者たち
あなたの御顔（みかお）を慕い求める人々である。
- 7 門よ おまえたちの頭（かしら）を上（あ）げよ。
永遠の戸よ 上（あ）がれ。
栄光の王が入って来られる。
- 8 栄光の王とは だれか。
強く力ある主。
戦いに力ある主。
- 9 門よ おまえたちの頭（かしら）を上（あ）げよ。
永遠の戸よ上（あ）がれ。
栄光の王が入って来られる。
- 10 栄光の王 それはだれか。
万軍の主 この方こそ栄光の王。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる共同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 ヨハネの福音書 1章 1～14節

- 1 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。
- 2 この方は、初めに神とともにおられた。
- 3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。
- 4 この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。
- 5 光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。
- 6 神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。
- 7 この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。
- 8 彼は光ではなかった。ただ光について証しするために来たのである。
- 9 すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。
- 10 この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。
- 11 この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった。
- 12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。
- 13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
- 14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

■聞けや歌声（1～3節）（聖歌71）

①きけやうたごえ 空にひびくを み神のみ子は 今し あもれり
もろびと立ちて ともによろこべ 神はよびとと やわらぎませば
栄えあれよと みつかいうと

②み子は上なき くらいをすてて 低きしずやを 宿と しませり
よろずの民の まちわびし主の われらの中に 住ませたまえば
栄えあれよと みつかいうとう

③歌え 義の日を 平和のきみを 受けよ光と いのちを主より
悩める民を 生まれかわらせ とわのいのちを あたえたまえば
栄えあれよと みつかいうとう

■頌栄 聖歌376「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン